



この子ガモたちは、親と離れたことが原因で自然界へ戻ることはできません。人とカモをすべての面で比べることはできませんが、このことは我々に多くの問題を投げかけているような気がします。

茶の湯を「茶道」にまで高めた人として知られる千利休は、その極意を「守・破・離」にあると言っています。利休がいう「守」とは、明らかになっている茶道の基礎・基本をしつかり身に付けると言うことです。しかし、それだけに心をとらわれていたらよりよいもの、もっと美しいものへの進歩も発展もないこととなります。それを「うち破り」さらに現状から「離れて」よりよいものを創り出すことによって進歩し発展するということです。利休はその中でも「守」の重要性を強調しています。

そこで、子どもたちの成長過程にこれをあてはめてみるとどうなるでしょうか。

「水鳥である子ガモが溺れることがある。」と言ったら皆さんは信じますか。これは、ある本で読んだ実際にあった話です。生まれてすぐに何らかの理由で親ガモから離された子ガモは、水に浮かぶ術すべである、おしりから出る油をくちばしを使って塗りつける行動を親から学んでおらず、また、親ガモのふところから出るときに羽が擦り合わさって発生する静電気を体に帯びないため、羽が水をはじかず溺れてしまうとい

生まれてから中学生の頃までは利休の言う「守」の時代と考えることができます。この時代に人として生きるための基礎・基本をしつかり学ぶことができなかつた子どもたちは、人間社会の中で子ガモたちのように溺れてしまうのではないのでしょうか。今、起こっている青少年の問題の多くは、人間社会の中で溺れもがいている子どもたちの悲痛な姿であり、大人への警鐘なのかもしれません。

学ぶの語源は「まねぶ」「まね」と言われますが、「守」の時代に学びのモデルとなるのは親であり、教師であり、社会の大人たちです。子どもたちの健全育成を考えると、我々大人が、まず、子どもたちにとって人生の良きモデルとなつていくかどうかを見直す必要があると思います。その上で、大人自らが正すべき所は正し、よりよい人間へと成長し続けていこうと努力する姿勢を子どもたちに示すことが大切です。

そういう大人をモデルとして「守」の時代を過ごした子どもたちは、やがて一人の人間として「破・離」と成長し、よりよい社会を創り出すための担い手となつていくのではないのでしょうか。

伝言板

富士北麓・東部地域振興局健康福祉部(大月保健所)

献血にご協力を

平成15年7月に、血液事業の新しい法律が制定され、献血血液は、血液製剤も含めて海外からの血液に依存しなくて済むよう、「国内自給」が基本理念とされました。

今後の人口動態を考えると、献血可能な人口は減少することが予想され、国内需要を推進するためには、これまでに以上に献血へのご協力を皆さんにお願いしなければなりません。

今医療の現場では、つねに血液が必要とされています。多くの人たちにとって献血が身近になれば、もっとたくさんの方の命が救えるはずで

山梨県におきましては、若い頃の献血体験による意識の高まりに期待しており、献血バスを全高校に配車して献血への協力をお願いしています。

また、甲府市にある県民会館内の献血ルームでは、12月31日と1月1日を除き年間を通して献血を実施し、特に若者への献血を呼びかけております。

「献血は、今すぐはじめられる

身近なボランティア」

自動車燃料費助成の手続き

県では、心身障害者が使用する自家用自動車の燃料費を一部助成します。

申請の受付を次の日程で行いますので、書類を確認の上、最寄りの会場にお越しください。来場できない場合は、期日までに郵送してください。

なお、必要な書類は、市の福祉事務所で配布しております。

受付日

・平成18年1月6日(金)

ぴゅあ富士

(都留市中央三丁目9-3)

・平成18年1月17日(火)

大月市総合福祉センター

(大月町花咲10)

受付時間

午前10時～午後3時まで

郵送の締切

平成18年1月20日(金) 必着

問合せ・郵送先

富士北麓・東部地域振興局

健康福祉部障害家庭福祉課

大月市大月町花咲1608-13

☎ (22) 7826

FAX (22) 7828